

Lieber Freund

NPO鳴門「第九」を歌う会だより
“友よ”

リーバー フロイント

vol.5

発行：NPO鳴門「第九」を歌う会事務局
TEL 088-686-1296 FAX 088-686-7690(浅野)
E-mail:naruto_daiku@yahoo.co.jp

2005年6月5日発行



今年²⁰⁰⁵は日本におけるドイツ年。
在日のドイツ人6人、そして
ドイツからも仲間をお迎えし
「²⁰⁰⁶なるとの第九」開演です!

本番を一週間後に控えた5月29日、指揮者の
山和明さんを迎えて、初のオケ合わせを行いました。
合唱団にとっては先生のレッスンは二度目。
「フレーズの最後まで気持ちを保って」「オーケ
ストラの動きをよく聞いて、飛び出さないように」
……4月のレッスンの時より更に細かく、ついな
おざりになってしまいがちな箇所にも指示が飛び
ます。約3時間もの熱心なご指導に、オーケス
トラも合唱団もしっかり応え、ホールには豊かな音
が響きわたりました。

今年「日本におけるドイツ年」。鳴門でもさま
ざまな記念事業が行われますが、「第九演奏会」は



鳴門市内の中学生達も参加
初の通し稽古に緊張しながら
も、初山先生のタクトについ
ていきます

5月29日のオケ合わせ。フレーズの散り出しや
終わりの処理にも注意をうながします



そのメイン行事。ソプラノソロはおなじみのアル
ムート・マリアンネ・クロルさん。在日ドイツ人
にも演奏会への参加を呼び掛けたところ、6名
の方が出演してくださることになりました。また、
オーケストラにはギレーヌ・ティン=ツェプター
さん(在日EU大使夫人)を、そして、はるばるド
イツからも合唱参加者(2頁にて紹介)を迎え、
記念事業にふさわしい国際色豊かな顔ぶれでの演
奏会となります。今年、1月から頃安先生、豊
成先生のご指導で練習を積んだ鳴門市内の中学生
15名も、舞台上上がります。しばらく途絶えて
いた若い世代の参加が復活したことも、うれしい
ニュースです。

鳴門、日本、ドイツの同胞たちと奏でる「第九」。
想像するだけでもワクワクしますね。

ごあいさつ

今年は「日本におけるドイツ年」です。大正時代からドイツと深い縁のある我が鳴門市で、記念事業の一環として、ドイツの方々のご参加を得て鳴門第九演奏会が盛大に開催されることは、誠に喜ばしい限りです。

特に今年は、姉妹都市リュネブルクのあるニーダーザクセン州ヴルフ首相、ツェプターEU日本大使をお迎えすることが出来ました。全国の第九を愛する500余名の皆さんと共に、世界平和を願いつつ「歓喜の交響

曲」を歌い上げましょう。

また、ご要望のございました第九翌日の大塚国際美術館の開館が「ドイツ文化を楽しむ一日」として実現し、併せて「渦の道」での観潮も可能となりました。両施設をご活用くださり、皆さんには鳴門の風物も併せてお楽しみいただければと存じます。

今年も第九を通して、新しい友情が芽生えますように！(全日本「第九を歌う会」連合会会長 亀井 俊明)

Lieber Freund

父娘で仲良く共演

小谷卓宏さん(T)・有輝さん(S)

ガッツあふれる(?)歌声が魅力の小谷卓宏さんが昨年からかわいいお嬢さんを入れて練習に現れるようになりました。家族で第九を歌えるなんて、すばらしいなあ…というみんなの羨望の眼差し、小谷さん、気付いていましたか？今年2度目の舞台となる有輝さん(中学2年)にコメントをいただきました。

「初めて第九を見たのは観客席からでした。すごい迫力でした。“私もいつかあの舞台に立ちたい”と思いました。そして、ついに去年、舞台に立たせて頂く

ことができました。去年は初めてだったので、すごく緊張していました。一番上の段で少し怖かったです。歌っている時の事はあまり覚えていません。でも、歌い終えた後は、すごく楽しかったと思ったり、達成感もありました。今年の目標は、歌詞をしっかりと覚えて思いっきり歌う事です。歌に表情を付けて歌う事が出来れば良いなあと思っています。まだまだ知らない事ばかりなので、迷惑をかける事もあると思いますが、どうぞよろしくお願いします」



「私もいつかあの舞台に立ちたい」と思いました。そして、ついに去年、舞台に立たせて頂くことができました。去年は初めてだったので、すごく緊張していました。一番上の段で少し怖かったです。歌っている時の事はあまり覚えていません。でも、歌い終えた後は、すごく楽しかったと思ったり、達成感もありました。今年の目標は、歌詞をしっかりと覚えて思いっきり歌う事です。歌に表情を付けて歌う事が出来れば良いなあと思っています。まだまだ知らない事ばかりなので、迷惑をかける事もあると思いますが、どうぞよろしくお願いします」

はるばるドイツから！ 勅使河原 清子さん(A)

勅使河原さんは、ドイツ南部のシュタウフェンで暮らしています。第2回里帰り演奏会の際、一緒に舞台に立ったのが縁で、今回ドイツから参加されることに！両国国技館での「5000人の第九」に出演するため2月に来日した際、鳴門の練習にも駆け付けました。「鳴門で練習ができたことは本当にいい経験でした。皆様によくしていただき心から感謝しています。6月の本番が楽しみです」と語ってくれました。



久しぶりの再会に、プラウシクバイクでの感動が蘇りました。写真左が勅使河原さん

第九の町・鳴門に願ってもない強力なサポーター

マティアス・ヒルシュフェルドさん(B)

Mattias Hirschfeldさんは、鳴門市の国際交流員として、昨年夏にドイツ・アイレンブルクより来徳されました。大学で文化社会学を専攻、なかでも日本学、音楽学について専門に学ばれたというだけあって、日本語がとてつもなく堪能。日本の



“Hirschfeld”は日本語に訳すと“鹿野”さん

文化や国民性にも通じており、細かな機微まで察する語学力にはいつも感心させられます。第九演奏会にあたっては、ドイツとの連絡・調整、在日ドイツ人への広報・出演交渉などに、手腕を発揮されました。

私達合唱団にとっては、“生きたドイツ語”の先生。幼少からヴァイオリンを学び、合唱活動も行っていたとお聞きし、昨秋の戴冠ミサでもバスの助っ人としてサポートしていただきました。もちろん第九にも「在日ドイツ人」の一人として参加されます。

ドイツ人として、音楽愛好者として「ドイツの音楽が鳴門で愛されていることはうれしい」と話してくれたマティアスさん。——実は他にもたくさんのお話を伺いましたので、次号からコーナーで随時紹介させていただきます。お楽しみに！



モーツァルト・コンサート

平成16年

- 「かがわ第九」に23名が参加
11月7日 於:香川県民ホール
- 鳴門市芸能祭 11月14日 於:鳴門市文化会館
- “コーラス9”第1回演奏会「モーツァルトコンサート」
11月23日 於:鳴門市ドイツ館
半年がかりで取り組んだモーツァルトの「戴冠ミサ」。山田啓明先生の指揮で62名がその成果を披露。“ドイツ館始まって以来”という観客から大きな拍手を受けました。ソロの酒井美里、小川明子、頃安利秀、美濃孝行の先生方、花井加奈さんはじめピアノの先生方、そして「Kyrieの“キ”」から(笑)コツコツと指導してくださった大井美弥子先生に、本当に感謝です。
- 松江所長の故郷・会津の第九に31名が参加
11月26~28日 於:会津風雅堂
今ここに誓もす「第九」ドイツ兵と松江所長の姿鎮たせて
～坂東秀子さんより寄稿
- 「サントリー大阪1万人の第九」に30名が参加
12月4~5日 於:大阪城ホール
年末の風物詩。鳴門の第九とは違った魅力です。
- 第2回研修会「X'masコンサート～リコーダーの響き」
12月19日 於:地場産業センター

活動の記録

2004.Autumn~2005.Spring

年末の第九ラッシュに加え、今年はコーラス9で演奏会を開催。「第九」以外の大きな曲にじっくり取り組んだことは、一人ひとりの大きな力になりました。相次ぐ出演依頼も、いつも大勢の方に参加いただき、好評をいただいています。さあ、今年はどうな場所で、どんな出会いがあるでしょう？

庄野龍夫先生率いるTANTによるリコーダーの演奏に心癒されました。

- 「三木第九」に6名が参加
12月23日 於:三木市文化会館



平成17年

- 鳴門ロータリークラブ記念式典オープニング参加
2月23日 於:ルネッサンス・リゾート・ナルト
- ヴォルティス徳島開幕セレモニーで「第九」を歌う
3月12日 於:鳴門総合運動公園
四国初のリーグ誕生を「歓喜の歌」で祝いました。
- 「日本におけるドイツ年」オープニング式典に参加
4月17日 於:鳴門市ドイツ館
- 第3回研修会「クラリネットコンサート」
4月24日 於:鳴門市文化会館ホール
- 徳島県人会設立総会 5月12日 於:クレメント徳島
全国から集まった県人に「鳴門の第九」をアピール。
- NHKの生放送「ひるどき日本列島」に出演
5月31日 間近に迫った演奏会をPRしました。



Coro Column

連載第3回「音が苦? 音楽!」

コラム:頃安 利秀

からだがかたくて、余分な力を抜くことが、あらゆる人間の動きにとって最も大切なことだと思ふ。私たちは人を励ますときに「頑張ってください」ということを知らず知らずのうちに言ってしまう。「頑張る」という言葉はもともと「我を張る」あるいは「眼張る」ということだそう。困難に耐えて努力する」という意味を込めて「頑張れ」と言っているわけだが、言われたほうはどうしても力が

入ってしまう。英語やドイツ語にはこれにぴったりくる訳語が見当たらない。「hold out」(持ちこたえる)、「do one's best」(最善を尽くす)あたりでカバーするしかない。つまり日本語にしかない言い回しなのである。戦時中から戦後、そして今でも「頑張っている」多くの人がいる。しかしやもすると「我を張る」人になりかねない。もつと肩の力を抜いて、自分自身の本来あるがままの姿で、自分ができる

最善を尽くすことにしたらもつと楽になれるのではないのだろうか。「楽」なことは「楽しいこと」でもある。「音が苦」(おんがく)ではなく「音楽」にならなければ。



著者:頃安利秀先生
顔と体で分かる発声指導で、私たちを鍛えて下さる頃安先生。研究室には人体模型が転がっているとかいいます。鳴門教育大学教授。

Naruto

第九ゆかりの地を訪ねて

Nostalgia 第2回「ドイツ軒」

ドイツ軒は、その名の通り、板東俘虜収容所のドイツ兵に製法を習った初代店主の味を受け継ぐパン屋さんです。本場ドイツのマイスターにも太鼓判を押された本格的なドイツパンが店頭に並びます。クルミやヒマワリの種の入ったミルヒコンブロート(370円)や、ハーブがよく効いたピア・シュタンゲン(130円)などが人気だとか。食卓に、おみやげにいかがですか？



▲ライ麦、ハーブなどの自然素材を多く使うのが特徴

DATA

☎088-686-3698

住所/鳴門市撫養町南浜
字東浜674

営業時間/9:00~19:30
定休日/日曜



感謝状贈呈

全日本「第九を歌う会」連合会、並びにNPO法人鳴門「第九」を歌う会から、今年で鳴門の第九に10回以上参加されることになる以下の団体・個人に感謝状を贈呈させていただきます。

全日本「第九を歌う会」連合会加盟団体(2団体)

●札幌「999人の第九」の会 ●船橋第九合唱団

長年、第九演奏会にご参加いただいた方(17名)

清水奎亮、三枝康夫、多田 勲、松田みき子、筑後 徳、
撫喜美子、丸田央江、鈴木淑弘、原田 悟、岡島茂樹、
田淵貴志、梅川 薫、重久 瑞、中島芳子、遠山良子、
田村文江、三宅静江 (順不同、敬称略)

ソリスト・ミニ・コンサート in 交流会 プログラム(敬称略)

1. 中学生による合唱 Amazing grace/指揮:豊成 哲
2. ワグナー作曲 歌劇「タンホイザー」より
エリザベートのアリア「この厳かな宮殿で」
ソプラノ:アルムート・M・クワロル
3. ビゼー作曲 歌劇「カルメン」より「セギディーリャ」
アルト:小川明子
4. レハール作曲 喜歌劇「微笑みの国」より
「君はわが心のすべて」 テノール:垣安利秀
5. ロッシーニ作曲 歌劇「アルジェのイタリア女」より
「イタリアの女たちは」 バス:戸山俊樹
6. 全体合唱 ふるさと/指揮:豊成 哲
ピアノ伴奏:森 正、吉成くみ

事務局だより

♪準備万端！ご協力ありがとうございました

本番に向け、練習もいよいよ最終段階。本番への気運が盛り上がってきました。毎回の練習の受付に始まり、募金や一筆箋のラッピング、交流会の準備にと、一人一役のボランティア、本当にありがとうございました。演奏会当日もお互いに助け合って、鳴門ならではのもてなしを実現しましょう！

♪お困りの際は、黄色のジャンパーを！

どんなに準備していても、ハプニングは起こるもの。お困りの際は、黄色いジャンパーの者にお尋ね下さい。ちょっとした事でも気軽に声をかけて下さいね。喜んで対応させていただきます。



♪全国知事会での第九出演者急募！

7月14日(木)、大塚国際美術館で開催される全国知事会で、第九の第4楽章を山田啓明先生の指揮で演奏します。コーラス9を主体に編成しますが、男声が人数不足気味なので、参加を募っています。参加希望の方は事務局(浅野)☎088-686-1296まで。

日時: 7月14日(木)9:30~10:00

会場: 大塚国際美術館システィーナ・ホール

一緒に歌いませんか？ Chorus9

戴冠ミサの感動体験に「今年もぜひ！」とのうれしい声。そこで今年はシューベルトのミサ2番に挑戦です。戴冠ミサとはまた違った魅力がいっぱい。練習は6月から開始し、2月に本番の予定です。ふるってご参加ください。ただし！「心してかかってくださいね」と常任指導者の大井先生。昨年は出席率85% (皆勤の方も多数)の充実した練習に支えられての本番でした。舞台でのあの達成感をもう一度味わうために、毎回の練習を大切にしていきたいと思います。参加申込みは事務局(浅野)☎088-686-1296まで。



●ついに本番。コーヒー飲んでは打ち合わせ、ドイツ軒のパンを味見してはミーティング。裏方仕事もこれでフィナーレ!! 皆さん、ご協力ありがとうございました。

●お忙しい中、取材にご協力いただいたマティアスさん、会員の皆さん、ありがとうございました。次号は秋に発行予定です。
広報委員/上山貴史郎、大井美弥子、小川誠、濱田佳代子、山口英雄、山本貴久枝、吉本みどり